

## 名稱

ヲ利スルニ止リテ、其橋ノ朽損スルコトアルモ猶ホ之ヲ修造セズ、纔ニ假橋ヲ設ケテ以テ一時ヲ彌縫スルモノ夥カリシカバ、遂ニ文化四年、永代橋墜落ノ如キ異變ヲ生ズルニ至レリ、是ニ於テカ幕府モ亦甚ダ其非ナルヲ覺リ、直ニ之ヲ廢セシカバ、市民永ク之ヲ徳トスト云フ、然リト雖モ諸藩ニ在リテハ猶ホ此法ヲ墨守スルモノアリテ、以テ明治ノ初年ニ及ベリ、

〔新撰字鏡〕木梯 湯兮反、  
平波志、

〔倭名類聚抄〕十道 路具 橋附 葱臺

說文云、橋音高、和、水上橫木、所以渡也、爾雅注云、梁音良、卽水橋也、

〔類聚名義抄〕三木 橋 橋 晉高

〔伊呂波字類抄〕木地儀 橋ハシ道也、  
水梁也、  
〔陸階陞〕 橋 晉高  
〔字鏡集〕五橋 磯同  
ハシワタル  
ヨコタハル  
〔日本靈異記〕中未作畢佛像而棄木示異靈表緣第廿六○中

〔字鏡集〕五橋 磯同  
ハシワタル  
ヨコタハル  
〔日本靈異記〕中未作畢佛像而棄木示異靈表緣第廿六○中

〔字鏡集〕五橋 磻同  
ハシワタル  
ヨコタハル  
〔日本靈異記〕中未作畢佛像而棄木示異靈表緣第廿六○中

〔夫木和歌抄〕二十二長永三年九月顯季卿家歌合  
橋上云

藤原顯方歌

此歌判者基俊云、○中橋と梯と其儀不同、河や池にわたすをば橋といふ、此峯より彼谷にわたすをば梯といふ、同事のやうなれども、儀ことなりと云々。

〔神代卷風葉集〕翁閣齋曰、橋、端、著、同訓にて、皆通路をなす義也、

〔東雅地輿〕橋ハシ 義不詳、○中古語にハシといひしは、ワタシなどいふ語のごとき、彼と此との絶間をわたすものをいひしなり、堂と基との間をわたすものを階といひ、高きと下きとの間をわたすものを梯といひ、箸といふもの、また鳥の觜獸の喙のごときも、皆是其食ふべき物と口と